



Vol.156

CONTENTS

- 【コラム】個別入試への「情報」の出題…赤澤 紀子
【解説】中高生情報学研究コンテストの意義と第6回の審査の様子…中野 由章
【解説】第6回中高生情報学研究コンテストの作品紹介…稲垣 知宏

基
般



COLUMN

個別入試への「情報」の出題

高等学校に情報科が設置されてから約20年になる。これまで情報科は複数科目から1科目を選択する選択必修科目であったが、2022年度入学の高校生から「情報I」が共通必修科目となった。また、2025年度から大学入学共通テストの出題科目に「情報」が追加された。国立大学の一般選抜において、第一次試験として大学入学共通テスト（原則5教科7科目）を課してきた国立大学協会は、「情報」に関する知識については、大学教育を受ける上で、必要な基礎的な能力の1つとして位置付けられていくことになるとして、2025年度入学者選抜から、「情報」を加えた「6教科8科目」を原則とする基本方針を示している。さらに、本会も、国立大学協会のこの方針を歓迎し、国公私立大学の個別入試においても、「情報」が出題されることを期待する意見を出している^{☆1}。

そこで、筆者らは自主セミナーを令和6年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第19回）にて開催し、「2025年度の個別入試に『情報』を出題する大学からの『情報』を出題する意義や準備状況」、「すべての学部・大学の入学者選抜に『情報』で挑める意義」、「『大学入試を中心とした情報分野の学力評価手法の検討』の研究」さらに「『高等学校共通教科情報科の教科書に現れる用語』の研究」を紹介した^{☆2}。このセミナーには、300人強の大変多くの方々にご参加いただき、大学入試に「情報」を出題することへの関心の高さを改めて実感した。

「高等学校共通教科情報科の教科書に現れる用語」の研究では、現在までに出版された検定済教科書すべて（118冊）の索引に現れる用語を抽出している。「情報I」の学習指導要領では、その内容は4項目からなり、各項目はさらに3小項目から構成されている。対応する小項目を領域コードとして表し、各用語にそれが説明されるべき領域コードを付け、また、教科書数・会社数に応じた掲載度合などを付加した用語集を作成し、公開している^{☆3}。この用語集が受験をする側の高等学校の先生方や受験生の皆様の日々の学習の補助や受験対策に、また、出題をする側の大学関係の皆様の「情報」を入試に導入する際の資料として利用されることを期待している。

今後、出題にかかわる皆様、受験にかかわる皆様も含めた「情報」にかかわるすべての皆様と一緒に、多くの大学で「情報」が出題され、「情報」が大学入試の出題教科として当たり前の教科となるように、そして創り手と使い手が揃い、情報通信技術がいきわたる世界となることを願っている。

^{☆1} 「2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度—国立大学協会の基本方針—」に関する意見、https://www.ipsj.or.jp/release/20220131_2024Entrants.html

^{☆2} 令和6年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 自主企画セミナー個別入試への「情報」の出題、<https://uec.repo.nii.ac.jp/records/2000232>

^{☆3} 情報処理学会 情報入試委員会 情報科全教科書用語リスト、https://www.ipsj.or.jp/topics/20240412_word.html



赤澤紀子（電気通信大学）（正会員）akazawa@uec.ac.jp

2015年電気通信大学情報理工学研究科にて博士（工学）を取得。2023年度山下研究記念賞受賞。現在、電気通信大学特任准教授。情報教育、プログラミング教育、教育の情報化に関心を持つ。